

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



幸(さいわい)坂

No. 122

函館商工会議所報
1991 — 8月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えきん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

Lhくみカードローン

20万円から200万円まで

使い方自由

らくらく返済

担保・保証人不要

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。

あなたの預金で郷土を拓く。



函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

今月の表紙／視点	2	1
会議所の動き	2	5
・六部会を開催、二号議員35人の選任終る		
・本所合同部会、合同会議を開催		
・北海道新幹線の建設促進を陳情要望		
・青函高度情報通信ネットワーク講演会開催		
・自慢の技競う！函館地区珠算競技大会開催		
・函館港まつり、一万人パレードに参加		
調査レポート	6	11
・地域の景気	6	11
・市内第一種大規模小売店舗売上高	6	11
函館地域における景気動向	12	13
誌上講演	12	13
・『地価税導入と消費税改正について』		
平成三年度 第一・四半期		
P・Rコーナー	14	13
共済推進コーナー	14	13
・函館商工会議所年金共済制度		
テイータイム	15	
・「豊の良さを見直そう」		
有段を目指して	16	17
・詰碁・詰将棋		
アドバイスコナー	16	17
・保証人の法的責任とその留意点(5)		
情報コーナー	18	19
・サービスマーク登録制度について		
ご案内	20	21
・マル経貸付／国の教育ローンご案内		
・新会員紹介		
・函館商工会議所刊行図書ご案内		
告知板	22	
・講習会／セミナー開催について		
・検定試験のお知らせ		
・金融制度の手引発刊		

◇今月の表紙

幸(さいわい)坂

明治八年(一八七五年)に坂下の港岸を埋め立てて、幸町が出来た(「さいわい」とは将来の多幸を祈念して選ばれた町名である)のを契機に、坂名も幸坂に変わった。それまでこの坂は、今の弥生消防署の下に、山上大神宮があり、これを神明社といったことから、神明坂と呼ばれていた。明治十六年(一八八三年)には坂の途中に小学校が完成、坂名をとり幸小学校と命名され、昭和四十五年に廃校となるまで多くの卒業生を送り出した。坂の途中には、旧ロシア領事館の道南青年の家があり、青少年の研究宿泊施設として利用されているのは有名。

●視点

例年よりも気温が低かった八月も間もなく終り、秋の季節の九月を迎えます。

この八月には、年中行事となった人事院勧告や、明年度予算の概算要求などが行われますが、日本商工会議所でも各地の商工会議所の要望をふまえ、平成四年度の中小企業政策に関する要望を、関係省庁に提出しました。

大店法の改正などにより、中小小売業者への深刻な影響が懸念されておりますが、こういう状況の中で、わが国経済の活力の源泉であるといえる中小企業が、これらの変化に的確に対応し、健全な発展を続けていくためには、企業の自助努力を一層促進していくことが重要であるという見地から、次の大綱九項目の実現を要望しています。

- 1 中小企業の新分野進出と構造転換について三項目
 - 2 中小企業の物流共同化、効率化の支援について三項目
 - 3 中小小売商業の活性化について四項目
 - 4 労働力確保について三項目
 - 5 外国人研修生の受入れについて一項目
 - 6 中小企業の後継者対策の充実について二項目
 - 7 中小企業の金融対策について二項目
 - 8 技術革新及び高度情報化への対応について三項目
 - 9 小規模事業対策の拡充・強化について一項目
- これらはいずれも、これからの国際化、技術革新・情報化の進展、ニーズの多様化、そして人手不足などの厳しい情勢に対応するため、ぜひ実現しなければなりません。

本所合同部会・合同会議開催 市策定重要計画の説明受ける

●新函館港港湾計画
●函館駅周辺地域地区更新計画

本所六部会所属の議員による合同会議が七月十二日五島軒駅前支店で開催されました。

この会議は、本年七月に認可を受けた新函館港港湾計画及び昨年度策定の函館駅周辺地域地区更新基本計画について、市の担当部の説明を受け意見交換をするために開かれたものです。函館市からは品川港湾部長、牧都市開発課長ら



▲熱心に聴取する本所議員

が出席し、それぞれ担当の分野について詳しい説明がなされました。その後、出席議員との間で、この函館市の将来を決ずるともいえる重要な二計画について活発な意見交換がなされ、有意義の内に会議を終了しました。

●第二期テクノポリス函館
開発構想(草案)

本所工業、農水産、理財三部会とテクノポリス委員会の合同会議

北海道新幹線 早期着工を陳情要望

木戸浦函館市長を団長とする北海道新幹線建設促進期成会の一行二十四名(本所からは松本副会頭日野事務局次長が参加)は、去る七月十五日自民党本部、運輸省等に対して、東北新幹線(盛岡―青森間)の早期完成と、北海道新幹線の早期着工とのための環境影響調査等の早期実施、さらには青函トンネルの有効活用を図るため、

は、去る七月二十三日開催され、この程まとまった第二期テクノポリス函館開発構想の草案について市当局から説明を受け、意見交換を行いました。

これは、昭和五十九年にテクノポリス開発計画が承認され、第一期計画が実施に入りましたが、平成二年度でこの計画も終了することとなるため、その後の経済社会環境の変化を加味し、一期計画の目標を継承しつつ新たな課題である産・学・住・遊が一体となった個性的で魅力ある地域づくりを盛り込んだ構想を策定することとし

東北新幹線青森開業時における函館までの同時開業を陳情要望しました。

翌十六日には、東京プリンスホテルにおいて整備新幹線早期着工促進議員連盟総決起大会が開かれ、全国各地の関係団体から約三百五十名が参加して、盛大に開催され、新幹線の建設促進をアピールしました。

しており、この構想では道立工業技術センターの拡充整備などとともに、テクノポリス函館技術振興協会の基金六億円の増額が含まれており、地元経済界からの支援も要請されております。

なお、八月に開発構想、十月に開発計画を国へ提出し、明年早々承認を受ける日程になっています。

●お知らせ●

九月は一号議員の選挙月です。

選挙人名簿確定日の九月九日まで、本年度会費及び特定商工業者負担金が納付されていない場合は、選挙権行使することができませんので充分ご注意ください。

また、ご納付されていない場合は、早急にお願ひ申し上げます。

青函高度情報通信

ネットワーク講演会開催

本所、北海道テレコム懇談会等の共催による青函高度情報通信ネットワーク講演会が、去る七月二十四日函館ハービービューホテルで開催されました。

これは、青函インターブロック交流圏の形成に向け、高度な情報通信基盤の整備とネットワーク構築のあり方について、郵政省主管の青函高度情報通信ネットワーク調査委員会で調査・研究した結果をふまえ、今後、この構想を着実に具体化し実現させるために、行政、産業、経済界等各界の理解と支援が不可欠との考えから、函館地域において講演会を開催したものです。

講師の高原郵政省通信振興課長からは、本省としても地域の情報化のための諸施策を強力に推進し積極的に支援していく。また、橋本N.T.T函館支店長は、投資額も大きい、地域の振興発展に寄与すべく地域の情報化に一層努力したいとし、最後に、大内東北大教

授は、今や世界において、ECなどボーダレス化が進められている中で、青函圏も第二国土軸を形成する重要な地域として、政令都市

自慢の技を競う！ 函館地区珠算競技大会開催

本所主催による第四十四回函館地区珠算競技大会が、七月二十一日、本所で開催されました。

今大会には、六十八人が参加し、それぞれ一般・高校の部、中学校の部、小学校の部にわかれて技を競いました。

個人、団体総合競技は乗算、除算、見取暗算、見取算、伝票算、応用計算の六種目、種目競技は読上暗算、読上算の二種目がおこなわれましたが、総合競技の上位入賞者は、九月八日に北見市で開催される第四十九回全道珠算競技大会に函館地区代表選手として出場できることもあり、各種目で熱戦が展開されました。

競技結果（一位のみ）

に次ぐような特別法でのボーダレス化が必要である。そして、調査委員会での海峡テレコムブリッジ構想に基づき、情報の発信地域として発展されることに期待する旨の講演があり、盛会裡に終了しました。

△団体▽

中学校の部 桐花中学校

△個人▽

「そろばん函館一」

日沼真佐美（北海道信連）

「そろばん中学生函館一」

砂田有貴子（桐花中）

「そろばん小学生函館一」

八木 泰樹（昭和小）

△種目競技▽

読上暗算

第一部 高橋 聖学（教育大）

第二部 佐々木弥生（旭岡中）

第三部 八木 泰樹（昭和小）

読上算

第一部 野田 祐樹（教育大）

第二部 海老名加美（本通中）

第三部 宗山まどか（上磯小）

函館港まつり

一万人パレードに参加

開港百三十二周年記念函館港まつりは、去る八月一日から七日までの一週間にわたり、多彩なイベントを盛り込み、賑やかに繰り広げられました。

本所は、二日に行われた恒例の「一万人踊りパレード」に新調した浴衣で、本所婦人会の皆さんと共に参加し、沿道の見物客から多くの御声援をいただきました。



▲ 今年は新浴衣（黄色地に黒の会議所マーク）で参加

事務局日誌 7月

*** 正副会頭会議**

- 3(水) 第72回正副会頭会議
- 11(木) 第73回正副会頭会議
- 25(木) 第74回正副会頭会議

*** 常議員会**

- 11(木) 第12回常議員会

*** 部会・委員会**

- 12(金) 新函館港港湾計画と函館駅周辺地域地区更新基本計画についての説明会(6合同部会)
- 23(火) 第2期テクノポリス函館開発構想に係る合同会議(工業・農水産・理財部会・テクノポリス委員会)

*** 会議(日商)**

- 24(水) 倒産防止特別相談事業推進担当者会議

*** 会議(道商連)**

- 29(月) 平成3年度経営改善普及事業説明会

*** 会議(ブロック会議)**

- 24(水) 道南ブロック商工会議所としての会員サービス事業事前打合せ

*** 審査会**

- 10(水) 小企業等経営改善資金の審査会
- 26(金) 〃 〃

*** 諸会議**

- 2(火) 函館港まつり協賛会協賛金調達打合せ会議
- 4(木) 函館国際イカフォーラム
- 〃 みなみ北海道広域商工振興連絡協議会総会・懇親会
- 5(金) 箱館奉行所復元促進期成会幹事会
- 8(月) 四共済受託幹事会社事務担当者会議
- 9(火) 第3回ウラジオストク友好親善訪問実行委員会
- 10(水) 箱館奉行所復元促進期成会役員会・総会
- 11(木) 日本銀行函館支店金融懇談会
- 〃 北洋はまなす会函館ブロック講演会
- 12(金) 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会
- 15(月) 平成3年度みなみ北海道観光連盟通常総会
- 18(木) テクノポリス函館地域推進協議会
- 〃 第3回管理職会議
- 19(金) 函館卸商連盟正副会長会議
- 〃 函館都心商店街近代化基本計画策定委員会第1回委員会
- 22(月) 函館市国際交流基金運営委員会
- 〃 函館ケーブルテレビ事業説明会
- 〃 第9回湯の川温泉街活性化推進懇談会
- 〃 平成3年度第2回函館地区社会保険委員会役員会・懇親会
- 23(火) 平成3年度函館市民憲章推進協議会理事会・総会
- 〃 開港132周年記念函館港まつり万人踊りパレード参加団体責任者会議
- 24(水) 湯川商店街活性化対策事業としての第1回商店街活性化計画策定委員会
- 26(金) 全国観光土産品公正取引協議会「北海道函館大会」実行委員会
- 〃 渡島・桧山地域雇用開発会議
- 〃 函館空港線ウェルカムロード事業整備推進連絡会議

- 29(月) 函館市人材確保推進協議会幹事会
- 〃 四共済受託幹事会社担当者会議
- 30(火) 第5回ウラジオストク友好親善訪問実行委員会
- 31(水) 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会
- 〃 全道卸商連盟事務担当者会議
- 〃 所報「ともえ」・8月号 No.122 編集会議
- 〃 函館市都市計画審議会

*** 陳情・要望**

- 15(月) 北海道新幹線建設促進期成会平成3年度第2回中央陳情
- 16(火) 整備新幹線建設促進総決起大会

*** 講習・催物**

- 4(木) 記帳講習会
- 10(水) 経営安定特別セミナー「社長の失敗・私はここが甘かった」
- 11(木) 記帳講習会
- 17(水) 発明相談
- 18(木) 記帳講習会
- 19(金) 人材確保対策実務講座「中途採用者の定着・人事政策と給与の決め方」
- 24(水) 青函高度情報通信ネットワーク講演会
- 25(木) 記帳講習会
- 26(金) 商法改正特別セミナー「会社法改正に中小企業はこう対応しよう」
- 27(土) 法律相談

*** 刊行物**

所報「ともえ」7月号 No.121

*** 相談・診断**

金融 64 税務 246 経理 17 経営 51
労働 1 合計 379

*** 貸室**

19

*** 文書**

受信 270 発信 36

*** 検定**

- 14(日) 3級ワープロ検定試験
- 17(水) 3級販売士検定試験
- 21(日) 第44回函館地区珠算競技大会

*** 慶弔・その他**

- 2(火) 日本エア・システム札幌支店長表敬訪問
- 3(水) 海上自衛隊 井野司令官 井野氏着任挨拶
- 4(木) 函館国際イカフォーラム 招待者歓迎レセプション
- 9(水) 北海道東北開発公庫 篠原前副総裁表敬訪問
- 〃 函館水産研修会10周年記念講演会・祝宴
- 〃 ㈱ドウデン就任挨拶
- 10(水) 北海道セルラー㈱支店披露
- 17(水) 平成3年度函館市勤労青少年優良者表彰
- 18(木) 北海道東北開発公庫 吉岡前総裁表敬訪問(苫小牧東部開発㈱取締役社長)
- 19(金) 本所三谷婦人会々々長一日少年鑑別所長講演会
- 〃 日本航空㈱取締役北海道地区担当 柳札幌支店長表敬訪問
- 20(土) 第51回海の記念日海上安全祈願祭、記念式典、海事功労者表彰式
- 22(月)~26(金) 経営指導員研修
- 25(木) はこだて明治館(2号館)竣工レセプション
- 〃 中小企業金融公庫 白井理事表敬訪問
- 〃 北海道東北開発公庫 中田副総裁表敬訪問
- 26(金) 新ミスはこだて表敬訪問
- 27(土) 第16回高田屋嘉兵衛まつり顕彰・慰霊式・祝賀会
- 29(月) ㈱オペレックス函館支店新築工事地鎮祭
- 31(水) 北海道財務局 保坂総務部長表敬訪問

営業品目

S P 飼料・純正魚粉・飼料用油肥・高級飼料用諸製品
塩化コリン・食用精製魚油・硬化油・エステル・コレステロール
液晶・特殊調味用エキス類・ファインケミカル諸製品



日本化学飼料株式会社

取締役社長 川田 寛

本社・函館工場 函館市浅野町3-6 TEL(0138)41-6101
FAX(0138)41-7444

(3)その他製造業

セメントは、好調な国内設備投資関連需要を背景にフル生産を続行。また、合板は建材向け厚物合板中心に、段ボールは青果物向け等を主体に、それぞれ高めの生産を維持している。一方漁網は、受注環境の悪化を映じイカ流し網を主体に引き続き前年を下回る生産となっている。

(4)建設関連

住宅着工が引き続き鈍化（4～6月中の市内新設住宅着工戸数前年比△31.7%）するなど、民間工事はこのところ落ち着き気味ながら、公共工事の発注が順調に進捗（管内主要5官庁の6月末進捗率59.7%〈前年同58.9%〉）しているため、建設筋は総じて繁忙裡に推移。

(5)農・漁業

農作物は、好天に恵まれ主力水稻をはじめ全般的に良好な生育が続いている。また、近海マイカ漁は日本海側が好漁の一方、太平洋側は低調で地域によるバラツキがみられている。

(6)消費関連

6月中の市内大型小売店（10か店）売り上げは、好天に恵まれ夏物衣料が順伸したほか、アクセサリ等の身回り品も好売れ行きを示したため、全体では前年比6.0%の増加。7月入り後も、中元ギフトを中心に順調な売り上げが続いている。一方、耐久消費財では、6月の乗用車販売が新車投入

前の買控えから前年を下回ったほか、家電販売はヒット商品不在から引き続き盛り上がりには乏しい展開。

この間、観光・レジャー面をみると、余暇の拡大等を背景に客足が順調に伸びており、ホテル、観光関連施設とも盛況裡に推移。

3. 金融事情（6月中）

実質預金は、交付金流入等から公金預金が前年を上回る増加を示したものの、法・個人預金が大口定期等自由金利預金の増勢鈍化等から引き続き弱含みに推移したため、月中334億円増と前年（379億円増）を下回る増加に止まった。また貸出しも、設備資金需要が引き続き盛り上がり欠けたこともあって、月中100億円増と前年（147億円増）を下回る増加となった。

この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、新長プラの導入にも拘らず短プラの引き下げ等が火きかったため、月中△0.012%の小幅低下となった。

銀行券は、公務員ボーナス等の現金需要が嵩み、月中69億円の発行超となった（前年、同68億円）。

財政収支は、租税が法人税を中心に伸び悩んだものの、郵便局の定額貯金受入れ好調から、月中35億円と前年と同額の受超となった。

(平成3年7月30日発表)



— 日本銀行函館支店 —

1. 概 況

最近の管内景気を見ると、企業の売り上げ・生産は緩やかな増勢基調を維持しており、労働需給も引き締め傾向を続けるなど、総じて堅調裡に推移している。

すなわち、製造業では、一部先で受注が鈍化しているものの、電子部品、セメント等がフル生産を続行しているほか、夏場需要期を迎えた乳製品が増産を図っており、水産加工、段ボール、造船等も高めの生産水準を維持している。一方、非製造業では、建設は、民間建築工事が落ち着き気味ながら、公共工事の発注進捗から総じて繁忙裡に推移。個人消費も乗用車、家電販売が低調なものの、百貨店売り上げが好天に恵まれたことから好伸、観光関連でも本格シーズンを迎え、好調な入り込みが続いている。

この間、雇用情勢をみると、新規求人倍率は建設、サービス等の求人増を主因に引き続き高水準で推移。

なお、当地産業振興の新しい動きとして注目を集めている「テクノポリス函館」開

発の進捗状況を窺うと、全体のアウトラインを定める第1期開発計画の策定が終了し、より具体的な内容を示す第2期開発構想の取り纏めに移行しつつある段階。

6月の金融動向をみると、預金が自由金利預金を中心に伸び悩んだほか、貸出しも設備資金等が引き続き盛り上がり欠けており、いずれも増勢鈍化傾向を辿っている。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、短プラの引き下げを映じ小幅低下となった。

2. 主要業種別動向

(1)機 械

半導体は、次世代製品等を中心にフル操業を継続。水晶振動子も、国内移動体通信機器向け需要等が堅調なことから引き続き増産態勢で臨んでおり、これに呼応した形でのパート確保にも注力中。また造船は、公共投資関連の陸上機械・修繕船受注増に加え、新造船建造も順調裡に推移しているため、現有能力一杯の操業を続けている。一般機械は東南アジア向け輸出の持ち直しに加え、国内需要も底堅く推移しており、総じて高めの生産を維持している。

(2)食 料 品

水産加工では、生鮮珍味が中元贈答向けを主体に順調な出荷を続けているほか、乾燥珍味もまずまずの生産を維持。乳製品は、需給タイトな練乳等を中心に生産、出荷とも好調。飼料・魚油は、新年物イワシの漁期入りに伴い漸次操業度を引き上げている。

れる。

【卸売業】

今期比D I23.4、前年同期比D I19.1と、いずれもD Iがプラスを示し、業績好転が見込まれる。

細業種でみても、総じて増額を見込んでおり、飲食料品業、医薬品・化粧品業、燃料業、一般機械器具業ではいずれも今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【小売業】

今期比D I18.7、前年同期比D I21.8と、いずれもD Iがプラスを示し、売り上げ順伸が期待される。

細業種でみても、各種商品販売業や飲食料品販売業が今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示して増額を見込んでいるのははじめ、他の業種も総じて売り上げ好伸が見込まれる。

【サービス業】

今期比D I37.4、前年同期比D I37.5と、いずれもD Iがプラスを示し、増額基調が見込まれる。

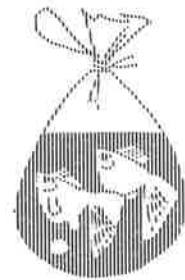
細業種でみると、クリーニング・理美容業、自動車整備業は横ばい状態だが、本格的観光

シーズンを迎えるホテル・旅館業、娯楽業では「減少」と回答する企業もなく、引き続き好調な観光客入込みが期待される。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業9.4%に対し、「悪化」とみる企業6.7%で、D Iは2.7と若干プラスを示しているが、「変わらない」とする企業が83.9%を占め、ほぼ今期並みに推移される見通しとなっている。

これを業種別にみると、建設業D I0.0、製造業D I△7.4、卸売業D I2.2、小売業D I2.1、サービス業D I25.0を示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変わらない」と回答している。



統計資料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高（10店） 平成3年6月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,154,698	100.8	105.0
身回品	699,345	100.4	105.4
雑貨	692,431	91.3	111.0
家庭用品	645,490	95.2	111.6
食料品	1,742,874	98.3	106.2
食堂・喫茶	158,027	96.0	106.8
サービス	99,402	94.7	99.7
その他	634,626	133.1	101.4
総計	7,826,893	100.6	106.0

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店をいう。

では、「人件費（労務費）の増加」をあげる企業が全業種で26.1%とトップを占め、次いで「求人難・人材難」が25.6%となっている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「労務費の増加」26.4%、「求人難」・「施工能力の狭小」がそれぞれ17.4%、「受注の不振」13.0%。

製造業では、「人件費等経費の増加」37.2%、「求人難」20.9%、「売り上げ・受注の不振」18.6%。

卸売業では、「人件費の増加」25.9%、「流通経費の増加」19.6%、「求人難・人材難」17.4%、「販売価格の値下がり」10.9%。

小売業では、「求人難・人材難」37.8%、「人件費の増加」17.8%、「売り上げの不振」15.6%。

サービス業では、「求人難・人材難」36.7%、「営業経費の増加」・「人件費の増加」がそれぞれ21.1%となっている。

今 期：3年4月～6月実績

前年同期：2年7月～9月実績

来期（7月～9月）の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業23.7%に対し、「横ばい」企業69.8%、「悪化」するとみる企業6.5%でDIは17.2とプラス、また前年同期比でも「好転」するとみる企業21.9%に対し、「悪化」するとみる企業が10.4%でDIは11.5とプラスを示し、好転が見込まれる。

業種別にみても、今期比では建設業DI4.2、

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種（11.5）	21.9	67.7	10.4
建設業（-4.1）	16.7	62.5	20.8
製造業（9.5）	19.0	71.5	9.5
卸売業（6.4）	21.3	63.8	14.9
小売業（15.2）	21.7	71.8	6.5
サービス業（33.3）	33.3	66.7	0.0

製造業DI14.0、卸売業DI10.6、小売業DI20.8、サービス業DI41.7と、すべてDIがプラスを示している。また前年同期比でも、建設業（DI△4.1）以外はすべてDIがプラスを示していることから、来期業況見通しは、業種間にやや格差こそみられるが、総じて好転基調が見込まれる。

2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業29.3%に対し、「横ばい」企業63.0%、「減少」するとみる企業7.7%で、DIは21.6とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」企業25.7%に対し、「横ばい」企業65.9%、「減少」企業8.4%で、DIは17.3とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

図-6 来期の売り上げ見通し（対前年同期比）

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種（17.3）	25.7	65.9	8.4
建設業（-4.8）	19.0	57.2	23.8
製造業（9.7）	14.6	80.5	4.9
卸売業（19.1）	31.9	55.3	12.8
小売業（21.8）	26.1	69.6	4.3
サービス業（37.5）	37.5	62.5	0.0

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると

【建設業】

今期比DI19.1、前年同期比DI△4.8と、今期比ではDIがプラスを示し、好転が見込まれる。

細業種でも、設備工事業が慎重な見方をしているが、総じて増額を予想している。

【製造業】

今期比DI14.6、前年同期比DI9.7と、いずれもDIがプラスを示し、操業度の引き上げが予想される。

細業種でみると、漁網業が厳しい見方をしている以外は総じて横ばいまたは増産が見込まれ、特に水産加工業、飲食料品業、木製品・家具業では今期比、前年同期比ともにDIがプラスを示し、生産活動の活発化が見込ま

を示している。

細業種でも、各業種とも横ばいまたは増額基調で推移した。

このように今期の建設業界は、依然として住宅需要が低調ながら、公共事業の発注本格化等により堅調に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比DI 31.7、前年同期比DI 10.0と、前期比ではDI がプラスを示している。

細業種でみると、水産加工業と金属・一般機械器具業が前年同期比でやや厳しい見方をしている以外は総じて生産活動は活発化しており、特に木製品・家具業、窯業・土石製品業、造船業では前期比、前年同期比ともにDI がプラスを示し、増産態勢を敷いている。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比DI 40.4、前年同期比DI 36.9と、いずれもDI がプラスを示し、業績が好転している。

細業種でも、各業種ともDI がプラスを示して増額基調にあり、特に織物・衣服・身の回り品業、燃料業、一般機械器具業では前期比、前年同期比ともに過半数の企業が「増加」と回答している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比20.4、前年同期比DI 10.7と、いずれもDI がプラスを示し、引き続き順調な伸びを示している。

細業種でみると、新車販売実績の鈍化傾向が続いている自動車販売業が厳しい見方をしている以外は総じて好調を維持しており、特に各種商品販売業、飲食料品販売業、金物販売業では前期比、前年同期比ともにDI がプラスを示し、売り上げを伸ばしている。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比DI 66.7、前年同期比DI 62.5とプラスを示し、いずれも6割を超える企業が「増加」と回答し、更に上向いている。

細業種でも、すべての業種で「減少」と回答する企業もなく、引き続き増額基調に

あり、特にシーズン入りした観光関連では、昨年実績を上回る勢いをみせている。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-1.7)	22.0	54.3	23.7
建設業 (-12.5)	16.7	54.1	29.2
製造業 (-13.9)	16.3	53.5	30.2
卸売業 (0.0)	25.5	49.0	25.5
小売業 (-2.1)	20.8	56.3	22.9
サービス業 (29.1)	33.3	62.5	4.2

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業27.3%に対して、「横ばい」企業52.9%、「減少」している企業19.8%でDI は7.5と若干プラス、また前年同期比では「減少」企業23.7%が「増加」企業22.0%を上回ってDI は△1.7と若干マイナスを示し、採算面はほぼ横ばい状態で推移した。

業種別にみると、サービス業が採算面でも好調を維持している以外は総じて横ばいまたは悪化基調で推移した。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業13.3%に対し、「悪化」した企業5.5%でDI は7.8とプラスを示しているが、「変わらない」とする企業が81.2%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り (対前期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (7.8)	13.3	81.2	5.5
建設業 (12.5)	16.7	79.1	4.2
製造業 (-2.5)	2.4	92.7	4.9
卸売業 (13.4)	15.6	82.2	2.2
小売業 (-0.0)	10.6	78.8	10.6
サービス業 (25.0)	29.2	66.6	4.2

業種別にみても、DIが若干プラスを示す業種は多いが、いずれも大半の企業が「変わらない」と回答している。

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点とし

函館地域における 景気動向

〈平成3年度・第1四半期〉

平成3年度第1・四半期（平成3年4月～6月）の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。
尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	221社	69.1%
建設業	40	27	67.5
製造業	80	54	67.5
卸売業	70	52	74.3
小売業	90	60	66.7
サービス業	40	28	70.0

（注）本調査結果の中のD I とある記号は、
デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から、減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

前期：3年1月～3月実績

前年同期：2年4月～6月実績

今期（4月～6月）の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業39.2%に対し、「横ばい」企業52.2%、「悪化」している企業8.6%で、D I は30.6とプラスを示し、好調に推移した。

これを業種別にみると、建設業D I 16.6、製造業D I 27.9、卸売業D I 34.0、小売業D I 20.9、サービス業D I 62.5と、いずれもD I がプラスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業30.2%に対し、「横ばい」企業55.5%、「悪化」企業14.3%で、D I

は15.9とプラスを示し、好転基調で推移した。

これを業種別にみると、建設業以外はすべての業種でD I がプラスを示しており、特にサービス業（D I 45.8）が好調感を増している。

このように今期の業況を前年同期比で見ると、建築関係が一服状態ながら生産活動や個人消費は引き続き順伸、また勢いをみせている観光関係も更に上向く等、総じて好調裡に推移した。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

	(D.I) 好転	横ばい	悪化
全業種（15.9）	30.2	55.5	14.3
建設業（-13.0）	17.4	52.2	30.4
製造業（7.4）	22.0	63.4	14.6
卸売業（26.1）	37.0	52.1	10.9
小売業（12.5）	27.1	58.3	14.6
サービス業（45.8）	50.0	45.8	4.2

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業45.1%に対し、「横ばい」企業44.0%、「減少」している企業10.9%で、D I は34.2とプラスを示し、増額基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業33.7%に対し、「横ばい」企業53.0%、「減少」企業13.3%で、D I は20.4とプラスを示し、好実績をあげている。

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

	(D.I) 増加	横ばい	減少
全業種（20.4）	33.7	53.0	13.3
建設業（0.0）	26.1	47.8	26.1
製造業（0.0）	12.2	75.6	12.2
卸売業（36.9）	47.8	41.3	10.9
小売業（10.7）	27.7	55.3	17.0
サービス業（62.5）	62.5	37.5	0.0

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 21.8、前年同期比D I 0.0と、前期比ではD I がプラス

地価税導入と消費税改正について

地価引き下げ効果は期待薄か

三菱総合研究所 国際分析センター

専門研究部長 坂 本 俊 造

第二百十通常国会が去る五月八日閉会しました。今国会では、多国籍軍に対する九〇億ドル支援など国際貢献のあり方が問題となりましたが、その陰にかくれて他の法案審議は従来と様変わりとの順調さで進められ八十三件が成立しました。この中で注目されるのが地価税法と消費税改正です。

まず地価税法の創設は、地価高騰に歯止めをかけることを目的としたもので、その仕組みは毎年原則として土地の相続税評価額の〇・三%（初年度は〇・二%）の税率で課税するものですが、居住用地や農地、一平方メートル当たり三万円以下の土地はほとんど非課税となります。この新税は九二年一月から施行されます。

地価税のねらいは、従来の税制がとかく土地保有に有利だったため、土地選好と地価高騰を招いたとの反省から土地の保有コストを上げて投機を抑えることにあります。しかし税率については当初構想の〇・五〜一・〇%が〇・三%に引き下げられ、

また基礎控除額が十五億円と高めに設定されたため、個人で地価税がかかるのはかなりの大地主ということになります。したがって地価引き下げに対する効果は期待薄というのが大方の見ですし、また平年度ベースで三千億〜四千億円の税収をどのように活用するかという問題もありますから、この新税が土地対策の柱となるためにはさらなる見直しが必要であり、したがってなお時間を要すると思います。

一方、消費税改正の方は、消費税の逆進性緩和、益税縮小や運用益の見直しなど、欠陥の是正を目的として今年十月一日から実施されます。八九年四月の導入以来、「見直し」、「廃止」など争点となっていた消費税問題も定着へと大きな区切りを迎えたわけです。

今回の改正では、消費者の払った税金が国庫に入らず事業者の懐に入ってしまういわゆる「益税」の解消がひとつのねらいとなっています。すなわち、この是正のため簡易課税制度の適用